



## 令和5年度 総合展示会に参加して

1年生 荒井 賢

令和5年11月2日(木)～11月5日(日)の4日間、長島愛生園で「旅」をテーマに総合展示会が開催されました。

私たち長島愛生園附属看護学校1年生は、「旅～ナガシマ」として作品を作成し、展示させていただきました。私たちは、この4月に長島にやってきて半年が過ぎました。そこで目にしたのは、風光明媚な瀬戸内海や長島に生息する生き生きとした動物、由緒ある建築物など、その美しさは筆舌にしがたいです。この半年、長島を旅して感じた美しさを表現するために、長島のオブジェを作成し、出会った生物、建築物、風景を写真に収め、加工したものを飾りました。クラスで作品を完成させたときは、嬉しかったです。

私は、総合展示会で作品を鑑賞して、特に俳句では、2つの作品が印象に残りました。

1つ目は、「手入れした草花鹿の餌となり」です。現在、愛生園には、多くの鹿が出迎えてくれています。手入れされた草花が、その鹿たちの生き生きとした原動力になっていることを実感しました。でも、手入れした人にとっては、鹿に食べられちゃって残念ですが、鹿にとっては、生活しやすい環境となっています。

2つ目は、「風と来て風と帰った来訪者」です。現在、長島にはたくさんの方が訪れるようになりました。観光やハンセン病の歴史や人権の勉強などが目的であるため、来訪したその日に帰られるのでしょうか。その様子が、「風と来て風と帰った」という言葉から想像されました。皆さんが来てくれて、会えてありがたいと同時に、ゆっくり出来ましたか、風のように、あっという間であったのではないかという思いを感じました。

また、北海道ゲートボール大会のお土産の「アイヌの木彫り」が多くありました。入所者さんのゲートボールへの情熱と愛情を感じたと同時に、みんなで頑張られたという証であると実感しました。

全体を拝見させていただき、それぞれの、作品に込められた入所者さんの思いを感じながら、「個性」や「特技」だけでなく、「自由」や「力」を感じ、大変感動しました。

最後に、展示会終了後には、学生の作成した作品は長島愛生園附属看護学校の玄関に飾っています。是非、皆さんも機会があれば、ご覧になって、長島について感じて頂ければ幸いです。

【総合展示会場にて】



【看護学校の玄関にて】

